

議員派遣結果報告書

1	名 称	鳥取県町村議会広報研修会
2	場 所	溪泉閣（三朝町）
3	期 間	令和5年8月7日（月）
4	感 想	・ <u>議会だより北栄 65 号 の評価</u> ▶ p 19 の酷評は想定範囲。指摘は的確。限られた紙面での情報提供力能力の未熟さを痛感。克服は容易。能力はある。 ▶ p 16-18 は個別のテーマを「小見出し」で括り内容を紹介すれば読みやすいということか。対応は可能。 ▶ 一般質問で掲載されない「他の質問」へのQRコード。可能なら、次回からでもやりたい。 ▶ 全体的な構成、的確な見出しの訴求力、ホワイトスペースの適度な確保、一般質問での「整理された記事内容のわかりやすさ、読みやすさ、<u>Q</u>と<u>A</u>の実に的確な見出し」という評価も当委員会の努力と能力の一端が理解されている。 ▶ p 15 「あの質問…」、p 20 「知っとん…」の高評価も納得。 ・ <u>今後の議会広報</u> ▶ ICT化で多くの情報の提供と紙の削減は理解できるが、欲しい情報を十分に入手可能な人がいる一方、QRコードを読み取りたくても不可能な人、そこまで手間をかけて読まない人など、個人の関心が両極化し、気軽に議会に接する貴重な機会の減少が懸念される。詳細な情報提供と紙の削減ならば県議会のように一般質問は1ページに4名、関連の写真なし、請願・陳情もQRコードで紹介という方法も。 ▶ 議会広報に関する考え方は一般質問の要約にAIを利用するICT化先進地の取手市議会のように、紙媒体はA3サイズ1枚にして主要なものだけを掲載し、一般質問等の詳細はQRコードで案内する電子版型と、QRコード等の使用は当面見送り従来の紙媒体を踏襲する方式など、議会により方向性の違いが今後鮮明になるのでは。ちなみに今回のクリニックで診断された県内15議会の広報誌の内、QRコードで一般質問が閲覧できないのは中部4町を含め6議会だった。 ▶ 「誰のため、何のための広報誌なのか」が大前提。ICT技術の導入で、一般質問が全体に占める割合の縮小が可能になり、他の議会活動や影響の大きさが懸念される議案の説明、及びその採決までの審議過程の紙面での可視化が充実するのでは。また住民の掲載を増やし関心を煽るのも可能か。

提出期限 令和5年8月25日（金）まで